©海事プレス社2024 禁無断転載

Daily Cargo

高品質で業容さらに拡大

■陸送事業者、国際物流網を補完

空港間の保税転送（OLT）をはじめ、国際航空貨物の陸上輸送を担う事業者の業容が多角化、進化している。OLTや、空港と物流施設間の搬出入輸送に加えて、そこで培われた品質を生かして、精密機器輸送や医薬品輸送といった高付加価値貨物の取り扱いを伸ばしている。もともと航空保安の基準を満たしたサービス・輸送品質に加えて、国際航空運送協会（IATA）の医薬品輸送品質認証CEIVファーマ、AEO特定保税運送者の認定を受けるための体制整備などの機会を生かし、品質向上につなげている。認証に裏付けされた品質を生かして安定したサービスを提供し、業容を拡大するという好循環をつくりあげている。

空港間のOLTなどは国際航空貨物輸送のネットワークを担うという観点から、安全・保安などに関して高い品質が求められてきた経緯がある。航空輸送においては高付加価値貨物を取り扱うことが多いといった特性があるほか、航空会社の運航スケジュールに合わせたオペレーションが求められるため、スピードや品質、オペレーションの定時性が重視されている。こうした事業の特性を踏まえて、OLT事業者は貨物の取り扱い品質の向上、安定した陸上輸送網の構築に尽力してきた。

セキュリティに関連しては、2001年9月の米国同時多発テロ以降、航空貨物輸送の保安基準が格段に高まった。国際情勢や事業環境を踏まえて、これら基準が改訂、強化される方向性にある。OLT事業者もこうした基準に対応するとともに、高付加価値貨物の輸送を担う中で、保安や輸送品質をさらに高めていくことになった。AEO特定保税運送者の取得なども保安や品質を充実・強化する上での契機となった。

コロナ禍において医薬品輸送が広く注目される中で、温度管理輸送の重要性が荷主にも浸透した。医薬品輸送とともに精密機器輸送においても温度管理が重視される中で、OLT事業者も車両体制を強化。医薬品輸送に関してはCEIVファーマ認証を取得する事業者もあり、認証を取得する過程で厳格な温度管理、万が一の温度逸脱時のバックアップ体制をさらに充実させた。IT化による情報管理の厳格化、情報共有による事業の安定運用、医薬品輸送を担うドライバーの研修などを徹底させることで、ハード・ソフトの両面から、より高い品質を追求し続けている。

安定した陸上輸送が国際航空貨物ネットワークを支えている

トラックドライバーの年間残業時間が厳格化する「2024年問題」への対応に際してもOLT事業者の特性が生かされている。航空機の発着スケジュールに合わせたオペレーションが求められるOLT事業者は、運行およびオペレーションの定時性が強みの一つ。トラックやトレーラーの運行計画を策定・管理する中で、ドライバーの配置、輸送の安定的・効率的な体制の構築に注力してきた。2024年問題を前にした早い段階で、中継輸送の確立、ドライバーの確保、拠点整備などの対策を打ってきた。

昨今、激甚化する自然災害によって航空会社のフライトに乱れが生じるような事態も発生する。特定の空港で一定期間、フライトの発着が制限される、あるいは貨物の取り扱いが一時的に中断されるといったイレギュラーも発生する。航空会社のダイバートを含めて事態が刻々と変化する中で、代替空港への貨物搬出入など臨機応変な対応が求められる。不測の事態にも対応可能な柔軟な体制の構築で培ったノウハウ、品質にさらに磨きをかける形でOLT事業者の品質が評価され、事業多角化につながる契機ともなっている。